

【校訓】
感動・創造・協調

【教育目標】
自律・創造
～平和で豊かな社会を創る力と志を身につける～

【めざす生徒像】
○自ら学び、正しい判断ができる生徒（知）
○思いやりがあり礼儀正しい生徒（徳）
○健康と安全に心がけ、心身ともにたくましい生徒（体）

【生徒の実態】全国・県学力調査結果から見る成果と課題

国語…条件に沿った作文や、自分の考えを理由と合わせて書く力は身につけてきたが、文章の内容や出題者の意図を正確に読み取る力に課題が見られる。（2年、3年）

数学…関数の分野は、昨年の県学力と比べてやや伸びているが、数と式、図形の分野が全国、県の平均と比べると力が発揮できていない。（3年）関数の分野は県の平均より高く、理解が深まっている。数と式、データの活用分野はやや県の平均より低い。（2年）

英語…短い対話文において、文脈に合った正しい語句を選択する問題はできていたが、まとまった量の英文を読んで概要や要点を把握する力、基本的な英文や与えられたテーマについて意見や理由を書く力に課題が見られる。

生徒質問紙（否定的な回答の割合の高いもの）

- | | |
|---|-------|
| （17）自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。 | 43.9% |
| （29）自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか。 | 63.4% |
| （30）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。 | 46.3% |
| （31）各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。 | 46.4% |
| （35）授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思うか。 | 43.9% |

【学力向上にかかる目指す生徒の姿】

基礎学力の定着（知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に取り組む態度の育成）

【総合的な学習の時間】ふるさと学の実践

課題解決力・コミュニケーション力・郷土愛

【各教科における手立て】

国語	・語句の意味や漢字の読み書き、文法などの知識を身に付け、活用する場面を随時設定することで語彙力を高める。 ・文学的文章や説明的文章を読むための基本的な観点を示し、意識して読むことで、正確に読み取る力を高める。
社会	・問い（単元を貫く問い、学習課題）の提示と単元の振り返りの工夫 ・パフォーマンス課題の提示 ・対話を生かした協働的な学習の工夫 ・「分ける」「つなぐ」「つくる」学びを生かした思考力・判断力・表現力の育成の工夫
数学	・効果的な「学び合い」の時間の設定 ・振り返りシートの有効活用（学習の振り返りと自己調整する力の育成）
理科	・既習事項の反復学習などによる、前時の復習の徹底→知識・技能の習得 ・考察の記入など、実験レポートの活用→思考力・判断力・表現力の育成
音楽	・曲の良さや美しさについて曲想と音楽の構造との関わりなどを根拠として挙げながら、自分の言葉で説明し、班などで意見の共有化を図る。 ・鑑賞領域では時代背景や曲に込められた思いをレポートにまとめ、思考力・判断力の育成及び向上を目指す。
美術	・絵画等の制作において、作品に込めた思いや工夫を文章化し、生徒の自己調整力を高める。 ・鑑賞領域では、他者の作品のよさを認めるとともに、その工夫を取り入れようとする態度を高め、技能の向上を図る。
保健体育	・chromebookの動画機能を活用し、自己の技能を客観的に把握し、めあてを解決するための見通しを持たせる。 ・単元の終末において、振り返りの場を設定し、自己の技能の向上や学びの道筋の在り方を実感させる。
技術	・実習において、班学習などを設定し、学び合いや対話を生かした学習活動の工夫を図る。 ・ICTを活用し、動画や師範を効果的に用いながら基礎・基本の定着を図る。
家庭	・ICTを活用し、動画や師範を効果的に提示する中で、知識や技能の習得を図る。 ・実習の計画や制作過程の振り返りを行うなど、自らの学びを調整する力を高める工夫を図る。
英語	・目的、場面、状況を設定したパフォーマンス課題の実施。 ・パフォーマンス課題に必要な単語や文法の習得（スベコン、単語テスト）を図る。

【全体的な手立て】

学習規律の徹底	・挨拶、返事、聞く姿勢の徹底 ・聞き方、話し方の約束、徹底 ・支持的風土の醸成 ・協働的な学び方
学習部による活動	・2分前着席、1分前黙想 ・宿題チェック
身に付ける力を明確にした指導	・めあてとまとめの工夫 ・振り返りの活用 ・問いや発問の工夫
ICT機器の活用	・クローズドブックの活用・キュビナの活用 ・視聴覚教材の活用
特別支援教育を基にした指導	・ユニバーサルデザイン ・個に応じた指導